

ROBERT KOBAYASHI : Moe's Meat Market

@Susan Inglett Gallery

Bobby Chung's Sister, Sin Moi, 2009
Image Courtesy of Susan Inglett Gallery, NYC



よみ時
BI WEEKLY
WWW.YOMITIME.COM
タイム

NEW YORK
EVENT JOURNAL
YOMITIME
2020年9月18日号
Vol.382

JAPAN'S #1
GREEN TEA
COMPANY
itoen.com



YOMITIME INC. ■ MAILING ADDRESS F.D.R. Station, P.O. Box 854, New York, NY 10150 ■ Tel 212-421-6322 ■ Fax 888-909-8109 ■ E-Mail info@yomitime.com ■ WEBSITE www.yomitime.com ■ 編集/制作/発行: ミニタイム・イン





Installation view of *Flowers at Moe's Meat Market*, 2009
All images: Courtesy of Susan Inglett Gallery, NYC



Glass Cup, 1998

重厚な額縁に囲まれた油彩画のように見えながら、卓上の静物も、横たわる裸婦のモチーフも、すべてはブリキの薄板を打ち付けたもの。作者のロバート・コバヤシ(1925~2015)は、70年代後半から、これらユニークなレリーフ短冊状にカットされた絵画や立体作品を作り始め、リトルイタリーのアパートビルに構えたスタジオの一部は、後にギャラリーとして開放された。エリザベス・ストリート237番地にあたるそのギャラリーは、かつてビルの一階を占めていた肉

屋の看板をそのまま掲げて「肉屋」と呼ばれ、近隣の作家仲間や住民ばかりか、メディアの話題ともなった。とはいえ、ギャラリーといえど、いつ開くのか定かではない。展覧会も定期的ではない。自由きままな運営ぶりは、知る人ぞ知るの存在に輪をかけ、画廊というより作家同士のコミュニティとしての側

面を強くしていたようだ。「ウチの作家のベヴァリー・セムズがあので、気になっていたんです。でも、ドアはいつも閉まっています。窓から中を覗くだけでした。この語るのは、本展を開催する画廊のディレクター、スーザン・イングレットだ。あ

るとき、スーザンの画廊のオープニングに現れたコバヤシの妻からスタジオ訪問を勧められ、初めて作家の存在を知ることになったという。筆者もまた、生前のコバヤシの活躍に気づくことはなかった。本展には、肉屋を改装中の1977年頃の写真や、作家仲間とのスケッチ、レリーフ絵画がサロン展風に並び展示風景など、ギ

ヤラリー「肉屋」の記録がズバリと並び、その変遷ぶりを知るべき。また、晩年の写真からは、洒落たランプや壁一面の真っ白なメタルシートなど、イル・デコ風の内装が伺えるが、この雰囲気を感じた小部屋が再現されているのも嬉しい。

コバヤシは、ハワイ生まれの日系三世で、ホノルルやブルックリン美術館付属の美術学校でアートを学び、当初は、抽象表現主義のスタイルによる作品を発表。在学中から「ニューヨークタイムズ」紙で評され、50年代後半には、作家運営のスペースとして東10丁目自軒を並べた画廊のひとつ「プラタ」の創設に加わっている。プラタは、独自のスタイルともいうべきブリキのレリーフ絵画や彫刻を手がけるのは、50歳を過ぎてから、い

わばMOMAの仕事から解放され、フルタイムで制作できるようになってからのことだ。小さな釘の頭が描く点々の模様は、点描派の名残だろうか。釘を打たず、穴だけ開けた部分との対比も面白い。最晩年の「白に白」の大作は、この点と線の大集合だ。また、静物画や裸

かつてのリトルイタリー追想 手仕事の温もり伝わる作品群 ロバート・コバヤシ回顧展



White on White, 2012

Robert Kobayashi:
Moe's Meat Market
■9月17日(木)~11月7日(土)
■会場: Susan Inglett Gallery
522 W. 24 St.
■入場無料
■www.inglettgallery.com

(藤森愛実)
その間、過去のアー
トを学び、多数の作
家と出会い、画風は
やがて抽象から、ス
ーザンやシマックの点
描画を思わせる室内
や風景のイメージへ
と変化していく。
独自のスタイルと
もうべきブリキの
レリーフ絵画や彫刻
を手がけるのは、50
歳を過ぎてから、い